

2018年

子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ



子どもゆめ基金 ガイド

子どもの
体験活動・読書活動への
助成を行っています

こんな使い方がある!! 助成活動事例を紹介

採択情報
満載!!



How To 子どもゆめ基金申請までの流れ



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ	
ー申請までの流れー	4
子どもゆめ基金ガイドの活用方法	
ー申請のワンポイントアドバイスー	5
子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介	6
平成29年度助成活動事例	
○子供の体験活動	
【自然体験】	
体験しよう 星の村チャレンジキャンプ&ラフティング	
実施団体／星の村星と夢キャンプ実行委員会	8
奥四万十自然体験村留学	
実施団体／特定非営利活動法人 自然体験活動支援センター ...	10
【科学体験】	
子ども自然災害学習 石ころ標本づくり～実験で身近な川を知ろう～	
実施団体／伊那市総合型地域スポーツクラブ	12
【交流体験】	
芋作り体験プロジェクト2017	
実施団体／特定非営利活動法人 まえはら子育てネットワーク ...	14
ふるさとの伝統文化体験交流	
実施団体／えのみや睦会チャレンジクラブ	16
【社会奉仕】	
秋のビーチクリーン	
実施団体／ビーチクリーンしまなみ	18
【職場体験】	
ながさキッズタウン	
実施団体／特定非営利活動法人インフィニティー	20
【その他の体験】	
第4回福島キッズ「リフレッシュ&エコキャンプ@恵泉」	
実施団体／学校法人 恵泉女学園	22
○子供の読書活動	
【読書活動】	
読み聞かせボランティア養成講座ー読み聞かせの基本がわかる！	
実施団体／特定非営利活動法人読み聞かせネットワークヒッポ ...	24
子ども向け教材開発・普及活動への申請をお考えの方へ ...	26
平成29年度 普及啓発事業の事例	
日中韓子ども童話交流事業	28
「体験の風をおこそう」運動	30
申請・採択状況	32
子どもゆめ基金へのご協力を	
「子どもゆめ基金」へ寄附いただいた皆様	裏表紙



「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

かつての子供たちは、自然の中や地域において様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかしながら、今の子供たちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負担がかからない「無重力状態」であるとともに、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もあります。（平成25年度中教審答申より）

体験活動に関する調査（国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」）では、

「子供の頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身についており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子供の頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。

民間からの寄附

独立行政法人
国立青少年教育振興機構

子どもゆめ基金

助成

助成



子供の体験活動を支援



子供の読書活動を支援



「子どもゆめ基金」の概要



●助成金の交付

●助成の対象となる活動

子供の体験活動

- ・キャンプや自然観察などの自然体験活動
- ・科学実験教室等の科学体験活動
- ・文化・芸術、スポーツ等を通じ交流を目的とする体験活動
- ・清掃活動等の社会奉仕体験活動
- ・地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動
- ・子供の体験活動の指導者養成 など

子供の読書活動

- ・読み聞かせ会、読書会活動
- ・子供の読書活動の振興を図るフォーラムの開催など

子供向け教材開発・普及活動

- ・インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動

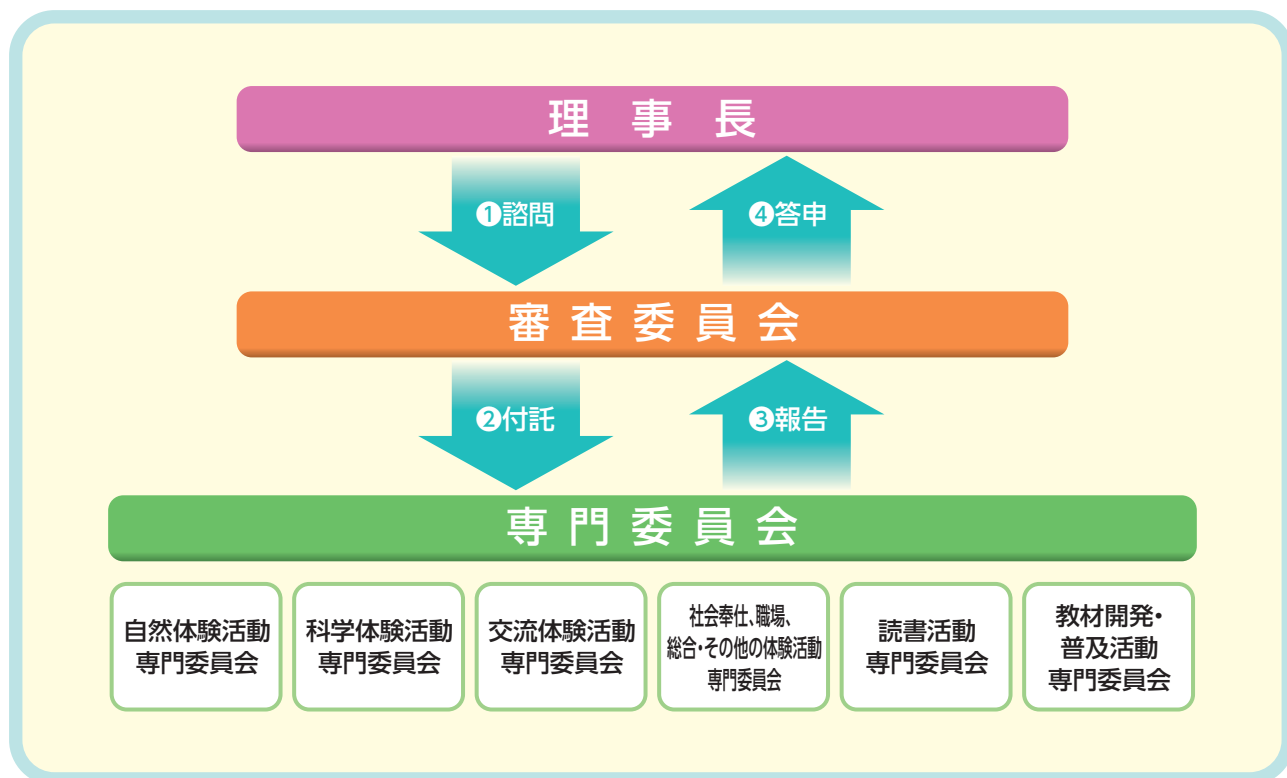
●助成の対象となる団体

青少年教育に関する団体（公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有しないが青少年のために活動する団体）

●助成金の額と審査方法

子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。



● 困難な環境にある子供の体験活動や読書活動への助成

● 背景

我が国の子供の相対的貧困率は、年々上昇しており、世代を超えた「貧困の連鎖」が指摘されるなど、子供の貧困は喫緊の課題であるとして、平成26年8月に「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定され、国において総合的な取組が推進されることとなりました。このような国の動向を踏まえ、子どもゆめ基金では経済的に困難な状況にある子供たちを対象に以下の取組を始めました。

● 取組の概要

民間団体が、経済的に困難な状況にある子供を対象とした体験活動や読書活動を行う場合、通常は助成対象外とされている参加者の交通費・宿泊費などの自己負担経費について、特に助成の対象とすることで、参加する子供の負担が軽減されるようにしました。その結果、平成30年度子どもゆめ基金助成活動には、207件の申請があり、このうち貧困対策に適合した申請を126件採択しました。

● 助成の対象となる活動

この助成の対象となる活動は、以下1、2のとおりです。

1. 民間の児童養護施設や母子生活支援施設及び一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会並びにこれに加盟する母子福祉団体が行う体験活動や読書活動
2. 上記1. 以外の民間の機関・団体が、経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的として、児童養護施設や母子生活支援施設、地方公共団体などと協力して行う体験活動や読書活動

詳しくは、子どもゆめ基金募集案内をご覧ください。子どもゆめ基金部助成課までお問い合わせください。

普及啓発

子どもゆめ基金では、子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。
(子どもゆめ基金ガイドの作成、普及啓発事業の実施等)



子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ —申請までの流れ—

初めての団体、小さな団体のみなさまも、ご応募お待ちしております。

企画立案はどうすれば…

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイドを読んで、これから企画する活動の参考にしてみましょう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>

実際に申請してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に参加してみませんか？

◎毎年9～11月にかけて全国40都市以上で実施しています。会場では、申請のガイダンスや個別質問回答コーナーを設けています。

子どもゆめ基金部主催説明会

2018年9月28日（金） オリンピックセンター （東京都渋谷区） 13：30～

2018年10月12日（金） 天満研修センター （大阪府大阪市） 13：30～

その他の会場や会場の詳細はホームページの注目情報からご確認いただけます。

URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/>

◎さらに、申請にあたってわからないことや相談したいことがあれば、子どもゆめ基金までご連絡ください。（メールでのお問い合わせ：yume@niye.go.jp、電話でのお問い合わせ：0120-57-9081月～金AM9：00～PM5：45）

募集期間は？

「子どもゆめ基金の募集期間」

一次募集期間 郵送 2018年10月1日（月）～11月13日（火） 消印有効

電子申請 2018年10月1日（月）～11月27日（火） 17：00締切

二次募集期間 郵送 2019年5月1日（水）～6月4日（火） 消印有効

電子申請 2019年5月1日（水）～6月18日（火） 17：00締切

◎二次募集は市区町村規模・申請額50万円以下（様式B）のみとなります。

◎直接持参する場合は、平日（土日祝除く）9：00～17：45まで受け付けます。

◎初めて電子申請される場合は、申請の前にID申請が必要となります。

募集案内や申請書は、子どもゆめ基金ホームページからダウンロードできます。従来の郵送による申請に加え、電子申請システムを利用した申請も可能です。一度電子申請で手続をとると、実績報告書の作成や次回以降の申請も簡単にできます。



教材開発・普及活動に申請をお考えの方は、26ページへ。

子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介

『子どもゆめ基金助成活動情報サイト』
<https://pr.yume.niye.go.jp>

こんな方にオススメ！

- 子どもゆめ基金助成活動情報サイトでは、北海道から沖縄まで当該年度に採択された助成活動がすべて掲載されています。その数約 5,000 件。
※助成団体からチラシが提出され承認されたら、掲載になります。
- 全国各地の多種多様なジャンルの体験活動や読書活動、フォーラム、指導者養成活動を見つけることができます。
- 次の方々にオススメです。
 - ・ 子供に感動的な体験をさせたい方
 - ・ 助成金申請を検討している方
 - ・ 他の助成団体の活動を見てみたい方
 - ・ 自分自身の興味・関心を深めたいという方
- 参加費のかからない活動も多数あります。
- 子どもゆめ基金助成活動の中から、普段の生活の中ではなかなか味わうことのできない感動や、一生心に残る体験をしてみたいかどうか。

ポイントは？

- キャンプなどの自然体験活動、実験教室やものづくり・プログラミングのワークショップなどの科学体験活動、異年齢・異世代・地域間等の交流活動、おはなし会やストーリーテリングなどの読書活動、その他さまざまな遊びや体験から、好きな活動を選ぶことができます。
- スマートフォン、タブレットからも利用可能です。
- 活動の分野・種類など、さまざまな検索方法で、やってみたい体験を簡単に探すことができます。

検索方法は？

子どもゆめ基金
助成活動情報サイト

さがして！ みつめて！ 体験しよう！

子どもゆめ基金は様々な体験活動を実施しています。
すでに興味関心のある活動が多数掲載されています。

詳細のある方は是非ぜひご覧ください！

検索でサイトを確認できます

① 開催地域
② 開催日
③ 活動の分野・種類
④ 募集対象
⑤ 参加費

検索

①開催地域

ブロック、都道府県から選ぶことができます。

②開催日

クリックするとカレンダーが表示されますので、開催日を指定することができます。

③活動の分野・種類

助成の対象となる活動の分野・種類から選ぶことができます。

④募集対象

活動への参加対象を選ぶことができます。(複数選択可)

⑤参加費

無料・有料から選ぶことができます。

気になる項目にチェックを入れていただき、『検索』ボタンを押すと、検索結果が表示されます。

体験しよう 星の村チャレンジキャンプ&ラフティング 実施団体／星の村星と夢キャンプ実行委員会

- 活動期間／6月25日（日）～11月11日（土） 日帰り2回 宿泊1回 9泊10日
- 活動場所／福岡県八女市、熊本県人吉市、球磨村
- 募集地域／福岡県、佐賀県、熊本県
- 募集対象／小学生（5年生以上）、中学生、高校生、一般成人
- 募集方法／・チラシ（配布先：公民館、観光施設） ・その他（Facebook）
- 構成員数／3人
- 連絡先／石川信男 nobuo834@yahoo.co.jp



球磨川ラフティング体験



星野村石割山登山

●活動のねらいとポイント

9泊10日の長期キャンプ中に色々なアクティビティを体験し、自らの身体を通して協力や協調などを学ぶことを目的としています。

具体的なプログラム名	主なポイント
ラフティング体験	球磨川の激流をラフティングボートでグループごとに力を合わせながら超えていくことで、グループの協力、協調性、団体としての行動規範を、言葉でなく身体と心で感じる。球磨川を下り、自然の怖さや楽しさを感じて、自然保護の大切さを学習する。
石割岳登山	仲間と共に、苦しく、辛い登山を通して、お互いの励ましや協力で頂上を目指す達成感、連帯感を体験させ、自分の役割や助けあいを学び、他の活動にも積極的に関わる意識を持たせる。
星野川沢遊び	安全に遊べる川、透き通る川の遊びを通して環境の維持や保全への意識を高める。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 野外活動で予想される擦り傷等にはスタッフそれぞれがすぐに対応できるように処置セットを携行する。看護師が常に同行しているのでその指示に従う。

【健康管理】 活動終了後の体調チェックシートの提出および活動開始時点の体調チェックにより、活動への参加の有無を決定する。主なスタッフは救急法の講習会を受講し、AEDを配備する。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/25	14:00~16:00	事前説明会
7/23	10:00~12:00	JR 羽犬塚駅集合
	14:00~16:00	星野川沢遊び
	16:00~18:00	夕食
7/24	9:00~12:00	石割岳登山
	13:00~14:00	やまめつかみ取り
	16:00~18:00	夕食
7/25	9:00~12:00	身近なもので食べることができるように（災害スキル）
	13:00~14:00	星野川沢登り
	16:00~18:00	夕食
7/26	9:00~12:00	熊本県球磨村へ出発
	13:00~14:00	球磨村探検
	16:00~18:00	夕食
7/27	9:00~16:00	ラフティング体験
	17:00~19:00	夕食
7/28	9:00~12:00	人吉市 陶芸体験
	13:00~16:00	星野村へ出発
7/29	9:00~12:00	クラフト 帽子・Tシャツ作成
	13:00~16:00	星野川水生生物調査
	16:00~18:00	夕食
7/30	9:00~10:00	健康体操
	10:00~12:00	クラフト 太陽めがね作成 昼間の天体観測
	13:00~16:00	フリータイム
	16:00~18:00	夕食
7/31	9:00~12:00	クラフト 木工体験
	13:00~16:00	班対抗ゲーム大会
	16:00~18:00	夕食
	19:00~21:00	別れの集い
8/1	9:00~12:00	解散式
	13:00	解散
11/11	15:00~19:00	事後報告会

●活動の成果と課題

長期の体験により、短期では得られない協力することの意味やお互いを認め合う意識が自然とできるようになり、指示待ちではなく各班の自主的な行動ができるようになってきました。小学生からの継続参加者が増加しており、将来、中学生リーダーやスタッフとして活動して行きたいとの要望もあり、すでに活動している者も増えてきています。

課題は、10日間の全プログラムに関わる大人のスタッフの確保が厳しくなっていることです。次年度以降は開催時期を8月中旬頃に移動させ、学生ボランティアも確保する必要があると検討しています。



星野川沢遊び



記念Tシャツ作り

●団体概要

【設立年月】 2010年4月

【設立の経緯】 2009年に福岡県より長期キャンプの実施を目的として設立の動きかけがあり、検討した結果、実行委員会を立ち上げ現在に至る。

【目的】 星野村の自然環境を活用した野外活動を地元協力団体と共に、夏休みを中心に年間6回程度開催している。

【構成】 キャンプ指導者、および自然学校指導者3名を中心に構成している。キャンプ実施時は他の指導者、クラフト作家等のネットワークを活用している。

奥四万十自然体験村留学

実施団体／特定非営利活動法人 自然体験活動支援センター

- 活動期間／8月19日（土）～8月25日（金）宿泊1回 6泊7日
- 活動場所／高知県高岡郡四万十町大正 下道、下津井、中津川
- 募集地域／岡山県 ホームページでも募集するので全国からも受け入れ可能
- 募集対象／小学生（4～6年生）
- 募集方法／・チラシ（配布先：公共施設（商業施設）） ・ポスター（掲示先：公共施設（商業施設））
- 構成員数／6人
- 連絡先／代表理事 福水満之 086-427-9222 080-5231-0948 Eメール mf293@aqua.plala.or.jp



シャワートレッキング



カヌー川下り

●活動のねらいとポイント

四万十川源流の山村で生活し、自然体験を通じて、自然と人々とのかかわり方について考察を深めると共に、協調性、社会性、自立性を身に付け、生きる力を育む事を目的としています。

具体的なプログラム名	主なポイント
林業体験	木を育てて生活しているプロセスを知り、自然からの恩恵を感じ、人と自然の関わり方を考察する。
シャワートレッキング	川を泳いだり歩いたりして溯上する事により、流れや地形を体感し、川の仕組みを理解し、危険予知、危険回避の方法を身に付けると共に、川の作り出す景色や、そこに住む生物を川の中から見て、自然への興味を深くもってもらう。また、集団での行動の中で、協力し合って目的を達成する喜びや、仲間の大切さを学んでもらう。
カヌー体験	川下りをする事で、刻々と変わる状況の中で、それに対応していく技術を身に付け、判断力・自主性を身に付ける。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】指導者は当団体の野外教育指導者の養成講座の受講修了者とし、フィールド及び子供の心のリスクマネジメントを常に行う。また指導者は常にファーストエイドキットを携行する。専門的な活動は専門講師を招き実施する。

【健康管理】事前に健康チェックシートを提出してもらい、活動当日にも保護者から子供の健康状態を確認し、指導者が毎日、健康チェックを行う。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8/19	8:00	岡山駅集合
	8:20	開会式
	8:51	岡山駅出発
	14:20	中津川宿舎着
	14:30	オリエンテーション
	14:45	アイスブレイク どこから来たの?何年生?自己紹介グループ分け
	17:30	食事準備(担当班)
	18:00	夕食
	19:00	片付け終了 入浴
	20:30	ふりかえり
	21:00	就寝
8/20	6:30	起床 健康チェック ラジオ体操
	8:00	朝食
	9:00	朝食片付け終了 林業体験の山へ移動
	10:00	林業体験(林業の話・間伐作業)
	12:00	昼食
	13:00	川遊び(川の仕組みを知る)
	15:00	昼寝
	15:30	集落散策
	18:00	夕食
	19:00	中津川の歴史(老人会会長)
	20:00	入浴
	21:00	ふりかえり
8/21	6:30	起床 健康チェック ラジオ体操
	8:00	朝食
	9:00	朝食片付け終了
	10:00	旧道で山越えし隣り村の下道へ
	12:00	昼食(弁当)
	13:00	下道ウォーキングセンター着 休憩
	15:00	ヤイロチョウの学習
	16:00	自由時間
	18:00	夕食
	19:00	入浴
	20:30	ふりかえり
	21:00	就寝

月/日	時間帯	プログラム内容
8/22	6:30	起床 健康チェック ラジオ体操 下道集落散策
	8:00	朝食
	9:00	朝食片付け終了
	10:00	下道出発 森林軌道跡を歩いて下津井に移動
	12:00	昼食(弁当)
	14:00	下津井小学校跡着 休憩
	15:00	下津井集落散策
	16:00	入浴
	18:00	夕食
	20:30	ふりかえり
	21:00	就寝
8/23	6:30	起床 健康チェック ラジオ体操
	8:00	朝食
	9:00	四万十川本流の河原へ移動
	10:00	カヌー体験 カヌー静水練習
	12:00	昼食(弁当)
	13:00	カヌー体験 カヌーツーリング
	16:00	カヌーツーリング終了 片付け テント設営
	18:00	夕食
	19:00	片付け終了
	20:30	ふりかえり
	21:00	就寝
8/24	6:30	起床 健康チェック ラジオ体操
	8:00	朝食
	9:00	朝食片付け終了 テント撤収
	10:00	中津川へ移動 川魚漁体験(川虫採り・魚釣り)
	12:00	昼食
	13:00	シャワートレッキング
	18:00	夕食
	20:30	ふりかえり
	21:00	就寝
8/25	6:30	起床 健康チェック ラジオ体操
	8:00	朝食
	9:00	帰宅準備 宿舎清掃
	10:00	キャンプ全体のふりかえり
	11:30	昼食
	12:40	中津川出発
	17:41	岡山着 閉会式 解散



沈下橋からの飛込



老人会会長による昔話

●活動の成果と課題

山村での自然体験を通じて、川や森の美しさを目の当たりにして、自然のすばらしさを感じ、地域の方の自然保護の取り組みを理解し、大切にしたいという気持ちを育む事が出来ました。また、共同生活の中で、自主性を身に付け、仲間との共同作業の楽しさを感じるとともに、難しさも実感し、解決に向けて考え、話し合っていく事が出来ました。

キャンプでは、概ね達成できたと思いますが、家庭に帰り、今回身に着けたものが持続できる様、保護者への子育ての助言の場を設け、理解を深める事が必要と感じられました。

●団体概要

【設立年月】 平成16年5月13日

【設立の経緯】 山の専門家、川海の専門家、生物の専門家が集まり、本物の体験を提供したいとの思いから設立しました。

【目的】 ・モモタロウ自然体験教室(月1回日帰り)・岡山県青少年の島管理及びキャンプ実施(受託事業)・大学生対象野外教育指導者養成講座(県受託事業)

【構成】 ・団体構成員1名(男60歳)・キャンプカウンセラー3名(男60歳フリーランス、男44歳ネイチャーガイド、女27歳養護教諭)・カヌー講師2名(男56歳、男55歳)・林業体験講師(男64歳)

子ども自然災害学習 石ころ標本づくり～実験で身近な川を知ろう～ 実施団体／伊那市総合型地域スポーツクラブ

- 活動期間／8月1日（火）日帰り1回
- 活動場所／駒ヶ根高原砂防ミュージアム及び大田切川森と水のアウトドア体験広場
- 募集地域／上伊那郡内小学校
- 募集対象／小学生（1～6年生）
- 募集方法／・チラシ（配布先：上伊那郡内小学校）
・ポスター（掲示先：創造館（図書館）、伊那市生涯学習センター、体育館）
- 構成員数／17人
- 連絡先／〒396-0026 長野県伊那市西町5830-1 伊那市市民体育館 附属施設1階



降雨体験車で体験



地滑り対策模型で実験

●活動のねらいとポイント

身近にある石を使って専門家による質の高い災害学習をします。その過程で子供たちに防災意識を高めてもらうことをねらいとします。

具体的なプログラム名	主なポイント
①地域の環境を知る	地元伊那谷の過去の土砂災害や、災害にあった時に必要なものは何かを教わる。また、地元の河川の上流にたくさんある砂防ダムの意味と作り方を学ぶ。
②災害の体験学習	広場にある降雨体験車に乗車し最大時間雨量 180mm（昭和 57 年長崎豪雨）がどのくらいの災害か体験する。また土石流対策模型や地すべり対策模型などを使って災害実験をする。
③河原の石の標本づくり	木曽山脈（中央アルプス）を水源とする大田切川の河原で色々な形や色の石を集める。集めた石を見て石の歴史（土石流で運ばれたのか？ 隆起してできたものなのか？ 噴火で飛んできたものなのか？ など）の説明を受けながらそれぞれ自分が集めてきた石を、講師が用意した大田切川流域地質図の中に分別し標本を完成させる。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】事前に講師・スタッフ及び駒ヶ根高原砂防ミュージアム担当者で危険個所の確認をし、スタッフ全員で共通認識としてしっかり共有する。また、当日参加者に周知する。

【健康管理】事前に健康管理確認を保護者にしていただき、当日集合時に子供の様子を確認する。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8/1	9:00~	開講式・講師紹介・日程説明（午後から雨の予報なので計画の順番を変更）
	9:20~	③河原の石の標本づくり ・大田切川河川にてそれぞれ色々な形や色の石を収集。 ・砂防ミュージアムに移動し、標本を完成させる。 （集めた石の名前や由来を講師に聞きながら、大田切川流域地質図の中の11種類の石の場所に振り分けておき標本を完成させる。） ※11種類の中で自分で探せなかった石は講師が対応。
	12:00 ~13:00	砂防ミュージアムにて昼食と休憩
	13:00~	①地域の環境を知る ・パワーポイントで伊那谷の過去の土砂災害の様子を学び、災害になった時に必要なものは何かを考える。 ・大田切川上流にもある砂防ダムの作り方や役割について学ぶ。 ②災害の体験学習 ・土石流対策模型や地すべり対策模型を使って実験をし災害の仕組みを学ぶ。また、降雨体験車に乗って車の中から豪雨の模擬体験。 ③地域の環境を知る ・小雨は降っていたが、大田切川付近にある七名石（噴火で飛んできた6トンもある石や氷河によって千畳敷カールから運び出されてきた石など）を見て歩き、こんな大きな石が降ったり運ばれたりする自然の怖さを学ぶ。
	15:00 ~15:30	質疑応答・感想・解散

●活動の成果と課題

夏休みの一日を身近な石を調べながら災害について学べるよい機会となりました。

講師の大学教授のご縁で国交省からも大勢の専門家がボランティアとして参加され、大人が惜しみなく本気で教えてくれることに対して、楽しみながら真剣に学習ができ、子供たちには実のある一日となりました。

これを機会に理科学習に興味を持ってくれることを願っています。

今後の課題として、子供たちは付き添いや見学で目に見える範囲に親がいてそちらに意識がいき自分で考えることや行動ができなくなる傾向があるとの指摘や、学校やスポ少などの活動と重なり参加できない等のご意見をいただきましたので、団体として検討していきたいと考えています。



河原で石拾い



石の標本づくり

●団体概要

【設立年月】 平成20年4月1日

【URL】 <https://www.inasougo.com/>

【設立の経緯】 平成20年4月1日に伊那市教育委員会が中心となって、平成14年から市内5中学校区に展開していたクラブを1つに統廃合し設立。現在に至る。

【目的】 地域のコミュニティとしての役割と、住民の健康づくり・生きがいづくりを担うスポーツクラブとして地域住民と共に自主的な運営を目指します。“日本の元気は地域から！地域の元気はあなたから！”をスローガンに個人を尊重し、地域住民が生涯にわたって生きがいをもって笑顔と健康で暮らすことを目的に活動しています。

【構成】 ・運営委員長1名（非常勤）・運営副委員長3名（非常勤）・運営委員9名（非常勤）
・クラブマネジャー3名（常勤）・クラブマネジャー1名（非常勤）計17名

芋作り体験プロジェクト2017

実施団体／特定非営利活動法人 まえはら子育てネットワーク

- 活動期間／5月7日（日）～11月3日（金）日帰り8回
- 活動場所／船橋市東町（畑：海老川調整池予定地内）、ネットワーク園舎
- 募集地域／船橋市 習志野市
- 募集対象／小学生（1～6年生）
- 募集方法／・チラシ（配布先：近隣小学校、児童ホーム、公民館）
・ポスター（掲示先：近隣店舗、掲示板、マンション等） ・広報誌（名称：ネット上のニュース）
・その他（HP等）
- 構成員数／9人
- 連絡先／特定非営利活動法人 まえはら子育てネットワーク TEL：047-476-7802



さつま芋栽培



さつま芋収穫

●活動のねらいとポイント

野外体験や異学年交流が少なくなった子供たちに、さつま芋栽培の活動を通しささまざまな体験をさせることをねらいとしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
さつま芋栽培体験	畑耕・畝作り・苗植え・看板作製・水やり・草取り・収穫と、半年間作業を続けるなかで、作物を作る楽しさや苦勞・達成感を子供たちが仲間と分かち合えるようにプログラムを行う。
ネイチャーゲーム、野菜カルタ、ハイクゲーム	五感を使ったゲームや、班で考え協力するゲームを行い、得点の高低をつけることで、さらに班の結束を深める。
班活動プログラム	協調・協力・共感しながら、様々なプログラムに取り組む。ゲームの企画や収穫祭を子供主体でやりきる。高学年は班をまとめる力や低学年をいたわる心を学び、低学年は集団の楽しさを感じられるように企画する。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全管理】 傷害保険に加入するとともに、初回に参加者全員で活動場所の危険箇所を確認する。活動前には下見を行い、それぞれの活動に応じた安全確保のための情報を指導者で共有する。活動中は、各班に配置した指導者が常に子供たちの活動に注意をはらう。
- 【健康管理】 夏の暑い時期は熱中症の心配があるので開催時間を早める。様々な特性を持った子供たちの参加を想定した人員配置をする。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5/7	9:00 ～11:30	結団式（アイスブレイクゲーム、班・班長・班付リーダーの発表） 班活動プログラムの班会議（自己紹介、班の名前決め）、危険箇所チェック、保護者へ活動主旨・留意点の説明 さつま芋栽培体験として畝作り・苗植え、班対抗ネイチャーゲーム
6/18	9:00 ～11:30	班会議・看板作製（班の名前を入れたデザインを考えペンキで作成） 班ごと、担当するゲームの相談（各班が順番でゲームを企画実行する）
7/15	8:00 ～10:30	班会議、さつま芋畑の草取り、周辺の畑の野菜の観察（野菜カルタ）、班担当ゲーム
8/5	8:00 ～9:30	草取りタワーゲーム
8/26	8:00 ～9:30	親子でさつま芋畑の草取り、ハイクゲーム、バッタ捕り、班対抗スイカにタッチゲーム
9/30	9:00 ～11:30	班会議、班担当ゲーム、草取り 指令書ゲーム（ネイチャーゲーム、バッタ捕り、班紹介の替え歌作り）
10/15	9:00 ～11:30	収穫祭の相談・各係りの準備（受付・配膳・レシピ・クッキング・コンテスト・ゲーム） 班担当ゲーム
11/3	9:00 ～13:30	収穫祭（家族で芋掘り、Big芋コンテスト、お芋パーティー、替え歌発表、班担当ゲーム、全員ゲーム） 表彰式（各班の賞、記念品授与）
		※毎回ネイチャーゲームを行った。また班活動、ゲーム優秀班を表彰した。



バッタ捕り

●活動の成果と課題

子供たちは畝作りや、暑い中での草取りなど、今までに経験のない苦労を体験できました。また、自然観察やネイチャーゲームなど行うなかで、自然の中での豊かなあそびの体験もできました。このような活動を班で行うことで、子供たちは班の結束を強め、協調、協力しながら、作物を作る楽しみや、達成感を仲間とともに味わうことができました。スタッフも子供たちが回を重ねるごとに班の中で打ちとけ成長していく姿を実感できました。

例年、ある程度の参加者は集まっていますが、もう少し増やすことが理想です。さつま芋作りの農業体験だけの企画ではないこと等、活動の趣旨を理解してもらうことや、子供たちにとって魅力を感じてもらえるように、いかにアピールできるかが課題です。



芋コンテスト

●団体概要

【設立の経緯】 1960年千葉県船橋市に「前原団地保育の会」として発足し、公立幼稚園に代わる自主運営の幼児教室を作りました。2002年9月 NPO 法人「まえはら子育てネットワーク」となり、地域に向けての子育て支援部門「豆の木」が発足しました。現在は認定こども園おひさま・児童発達支援事業つくしんぼ・小学生体験活動「豆の木」の3事業を展開しています。

【目的】 “地域の中でみんなで育つ”をミッションに、子供たちにとって大切なことは何か？にこだわりながら、地域の子供たち及びその親、家族に対して、乳・幼児期の保育や子育て・子育ての支援活動を行っています。

【構成】 豆の木の指導者は卒園児の母親が大半で、30代～50代です。

ふるさとの伝統文化体験交流 実施団体／えのみや睦会チャレンジクラブ

- 活動期間／6月11日（日）～12月23日（土）日帰り12回
- 活動場所／上八万体育館
- 募集地域／徳島市上八万町、下町、一宮町
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、保護者
- 募集方法／チラシ（配布先：小・中学校、子供会、児童館）
- 構成員数／9人
- 連絡先／〒770-8040 徳島市上八万町上中筋560番地 上八万体育館内
電話：088-668-0167 Fax：088-668-0167



神踊り体験



祭りばやし体験

●活動のねらいとポイント

古より代々受け継いできた郷土が誇るすばらしい多くの伝統文化に体験を通じてふれあい、交流を深めることをねらいとします。

具体的なプログラム名	主なポイント
ふるさとの伝統文化の学習・交流	古からふるさに伝わる伝統文化について、由来や意義、歴史を学習する。各地区の子供会のメンバー等との交流を行う。
神踊り体験・交流	平安時代からこの地に伝わる徳島県指定無形民俗文化財の「神踊り」について、歌い方、踊り方等を学ぶ。各地区の子供会のメンバー等との交流を行う。地域のお年寄り等と交流する。
祭りばやし体験・交流	江戸時代中期から、ふるさに伝わってきた祭りばやしの太太鼓、締太鼓の打ち方、鉦のたたき方、笙や篠笛の吹き方等を地域のお年寄りから学び、練習を積んで、秋祭りに参加する。夏休み、冬休みを中心に、各地区のお年寄りや子供会との学習交流を図る。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】
- ・活動地域の上八万町、一宮町ともにクリニックがあり、事故等の対応をお願いしている。
 - ・活動中は保護者の付き添いを義務付けている。
 - ・代表者（医学博士）が指導者としていずれの活動にも付き添い、常に子供たちの安全に気を配っており、必要な措置を講じている。
- 【健康管理】
- ・年2回（4月、9月）に保護者から子供たちの健康状態のヒアリングを実施している。
 - ・各活動においては、その都度、始める前に健康状態をチェックし、指導者への報告等を行っている。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/11	9:00 ～12:00	ふるさとの伝統文化の学習・交流
	12:00 ～13:00	昼食、休憩
	13:00 ～14:00	小学校高学年の経験者の体験談を聞き、意見交換などで交流
	14:00 ～15:00	ふるさと歴史資料館を見学
7/2	9:00 ～11:30	神踊り体験・交流 「神踊り」のビデオ鑑賞、踊り歌の学習、踊りの学習
7/16	17:00 ～19:00	祭ばやし体験・交流 「祭りばやし」元組の大太鼓の打ち方を学び、練習
8/6	17:00 ～19:00	祭ばやし体験・交流 元組の大太鼓、締め太鼓の打ち方を学び、練習
8/13	9:00 ～11:30	祭ばやし体験・交流 元組の大太鼓、締め太鼓、鉦の演奏の仕方を学び、練習
8/20	9:00 ～11:30	祭ばやし体験・交流 中筋組の太鼓の打ち方を学び、練習
9/10	9:00 ～11:30	祭ばやし体験・交流 中筋組の太鼓、笙、手拍子の演奏の仕方を学び、練習
9/17	9:00 ～11:30	祭ばやし体験・交流 祭りばやしの横笛の演奏の仕方を学び、練習
9/24	9:00 ～11:30	祭ばやし体験・交流 元組の大太鼓、締め太鼓、鉦と中筋組の太鼓、笙、手拍子を横笛に合わせ合同演奏
10/8	9:00 ～11:30	祭ばやし体験・交流 元組の大太鼓、締め太鼓、鉦と中筋組の太鼓、笙、手拍子を横笛に合わせ合同演奏



秋祭り体験
(子ども神輿)



神踊りに参加

月/日	時間帯	プログラム内容
11/3	11:15	鎮守の森に集合
	11:30 ～12:00	祭ばやし体験・交流 太鼓等を用いて、祭りばやしの練習成果を発表、披露
	12:00 ～12:30	秋祭りの祭典を見学
	12:30 ～13:00	昼食、休憩
	13:00 ～16:30	幼稚園児や小学生と子供みこしを引いたり、太鼓をたたいて交流 (テレビで放映)
	16:30 ～17:00	お年寄りとのお話タイム (お茶、お菓子)
12/23	13:00 ～14:30	ふるさとの伝統文化の学習・交流
	14:30 ～15:00	ティータイム
	15:00 ～16:30	小学校高学年の経験者の体験談を聞き、意見交換などで交流
	16:30 ～17:00	準備休憩
	17:00 ～18:00	お年寄りによる「神踊り」「祭りばやし」の実演を見学

●活動の成果と課題

(成果)

- ・小、中学生の子供たちの参加が延べ208名、保護者等が延べ96名あり、活動が地域に認知されてきました。
- ・徳島県無形民俗文化財の「神踊り」や「屋台神楽」「祭りばやし」などの歴史を学び、体験し、これらの行事に参加することで、ふるさとに誇りを持つようになりました。
- ・太鼓を打ったり、笛を吹いたりすることで親子で楽しく過ごすことができました。
- ・特に、秋祭りの行事には、親子で55名もの参加があり、地域のお年寄りや子供たちとのふれあい、交流の場となりました。

(課題)

- ・活動を支援するボランティアの確保や指導者の育成が課題です。
- ・地域に根ざした団体として活動の幅を広げるためには広報に工夫が必要です。
- ・今後、活動を継続するためには、資金の確保についても課題が残ります。

●団体概要

【設立年月】 平成18年5月

【設立の経緯】 平成17年4月、青少年の健全育成、地域における連帯・和づくりを目的に、ボランティア団体の「えのみや睦会」が発足しました。
平成18年5月、地域の子供たちの「体験の場」、「ふれあいの場・交流の場」としてチャレンジクラブが発足しました。

【目的】 子供たちがいろいろなことに挑戦し、経験する場を得て、仲間をつくり、楽しく、将来にわたり体を動かすことが好きになることにより、思い出がいっぱいの少年少女期を過ごせるよう、地域が見守り、育てて行くことを目的に、ふるさとの自然を観察、生活体験、伝統文化体験等の行事を行っています。

【構成】 会長、副会長、会計、事務局、監査 各1名、運営委員5名(兼3名)、顧問(まちづくり協議会会長、公民館館長、児童館館長)で構成しています。
(70代:1名、60代:2名、40代:5名、30代:1名 男:3名、女:6名)

秋のビーチクリーン 実施団体／ビーチクリーンしまなみ

- 活動期間／11月12日（日） 日帰り1回
- 活動場所／今治市宮窪町鶴島
- 募集地域／今治市および近隣の市町村
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、高校生、一般成人、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：児童館、学校、公民館など）
・広報誌（地元フリーペーパー、市） ・その他（コミュニティ放送ラジオ）
- 構成員数／5人
- 連絡先／ビーチクリーンしまなみ TEL：0898-33-0790（FM ラジオバリバリ内）



島散策途中、大きなカマキリ発見

●活動のねらいとポイント

過疎化する離島で、島民との交流を通じて島の楽しさと課題を感じる体験です。島民とともに海岸清掃では漂着物観察も行います。

具体的なプログラム名	主なポイント
ビーチクリーン・漂着物観察	参加した子供たちと島民の皆さんと一緒に海岸清掃を実施。どんなゴミがあるのかを考えたり、どういうところから流れてきたのかを想像する時間も設ける。
島ごはん	島の人と交流しながら、島の材料を使った、島ごはんを皆で頂く。
島散策	島の方のガイドで、島の文化にふれ、島散策しながら清掃場所の海岸へ移動。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全管理】 事前の下見を行い、歩いてみて危険箇所がないかを確認。また、海岸清掃時においては、危険なもの、触ってはいけないものなどへの注意喚起を具体的な事例とともに行う。救急セットを用意して、簡易な怪我はすぐ手当できるようにしておく。
- 【健康管理】 参加者の健康管理に関しては水分補給の準備、時節にあった服装に関する注意喚起（寒さ対策）。

●活動の日程・内容

月／日	時間帯	プログラム内容
11/12	10:00	受付
	10:30	今治出港（フェリー）
	11:00	鵜島着 鵜島の島民による鵜島の話
	11:30	島ごはん（昼食）
	12:30	目的地へ移動 / 島散策
	13:00	ビーチクリーン＋漂着物観察
	14:00	鵜島港へ移動 / 島散策
	14:30	鵜島の島民によるあいさつ・体験のまとめ
	15:00	鵜島出港（フェリー）
	15:30	今治港着 解散

●活動の成果と課題

離島の人々と交流を通じ、離島の暮らしを感じてもらえました。また、島の海岸清掃を行い、私たちの足元からごみが海に流され、様々な場所に流れ着いていることも確認してもらえました。アンケート結果での参加者の満足度は高く、再度全員が参加したいという回答を得ることができ、島の人たちからもぜひ続けてやってほしいとの要望を受けることができ、持続可能な活動になっていく手ごたえを感じられました。

課題としては当日複数の子供たちのキャンセルが出たため、全体として子供の参加者が減ってしまったことと、雨天延期となったため、スタッフ確保が難しかったことがあげられます。雨天も想定して早めの確保を心掛けたいです。



ビーチクリーン
(砂に埋もれているゴミを力あわせて)



海岸ゴミの解説



島の人たちのおもてなし・島ごはん

●団体概要

【設立年月】 2014年9月

【URL】 <http://blog.livedoor.jp/fmbeachclean>

【設立の経緯】 海水浴など「海」を遊び場とする子供たちが近年減りつつある中、海に行く機会を増やし、見て、知って地元の海の良さを再発見する機会をつくりたいという思いと、海ゴミなどの課題にも向き合い、行動するきっかけにしていきたいという思いを共有した有志で設立しました。

【目的】 海岸の自然環境保全に関する活動、また地元の海を通じて自然を愛する気持ちをより深めるために活動を行うことを目的とします。「See, Enjoy and Act」が合言葉です。

【構成】 20代（2名） 30代（1名） 40代（5名） 50代（1名） / 男（6名） 女（3名）
市民ラジオパーソナリティを中心に、県総合科学博物館学芸員、愛媛生態系保全管理理事、漁師など含め活動しています。

ながさキッズタウン 実施団体／特定非営利活動法人インフィニティー

- 活動期間／4月2日（日）～9月24日（日）日帰り30回
- 活動場所／長崎シビックホール
- 募集地域／長崎県
- 募集対象／小学生（3～6年生）、中学生
- 募集方法／・チラシ（配布先：長崎県内小・中学校） ・ポスター（掲示先：長崎県内小・中学校）
・その他（SNS）
- 構成員数／10人
- 連絡先／〒850-0843 長崎市常盤町1-1 TEL 095-822-8161 FAX 095-822-8179



ゲームセンター受付



スタッフ会議

●活動のねらいとポイント

まちの運営をしながら社会の仕組みを学び、異年齢の交流、文化の継承、地域への愛着心のめばえをねらいとします。

具体的なプログラム名	主なポイント
ながさキッズタウン	ながさキッズタウンの市民に登録（小学3年生～中学生）した人は、職業を選び、働き、給料をもらい、税金を納め、買い物（消費）するといった流れを体験する。起業することもでき、市長選挙にも参加できる。
子供会議	ながさキッズタウンを企画運営するスタッフ（小学5年生～中学生）の会議。大学教員、税務署職員、政治家等から政治経済の仕組みを学んだり、職場体験などを通して、職業を考えたり、治安を考えたりしてまちをデザインし準備する。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】事前に会場側と打ち合わせをし、特に注意をする場所等を把握し周知する。また、参加申し込みの際、保護者の方から既往症等の相談を受けた場合の対処方法も把握しておく。
- 【健康管理】常任スタッフにおいては、子供たちのメンタルケア、健康管理についてのケース会議を行うだけでなく、リスクマネジメント等の研修を受ける。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
4/2 ～ 8/25	13:00 ～15:00	《子供会議》（毎週日曜日に「ながさキッズタウン」開催のための準備会議）「議会」の学習・「経済」の学習・「職業」の学習・「税金」の学習・「福祉」の学習、など専門家の講義を通して学んだり、美容師、デザイナー、シェフなどのプロに技術を学んだり、フィールドワークなどを通して「まちの構想」を練ったり、「ながさキッズタウン」の準備をする。
8/26	9:00	《子供会議》 ・打ち合わせ（スケジュールチェック）
	9:30	《子供会議》 ・会場チェックと準備（安全点検）
	11:00	《ながさキッズタウン》・参加者受付（入国）
	11:30	《ながさキッズタウン》・オリエンテーション
	12:00	《ながさキッズタウン》 ・開国 職業を選ぶ→働く→給料をもらう→税金を納める→お金を使う（遊ぶ・買い物）
	16:00	《ながさキッズタウン》・1日目閉国式
	16:30	《ながさキッズタウン》・出国手続き
	17:00 ～18:00	《子供会議》 ・課題と解決方法の話し合い・片付け
8/27	9:00	《子供会議》 ・打ち合わせ（スケジュールチェック）
	9:30	《子供会議》 ・会場チェックと準備（安全点検）
	11:00	《ながさキッズタウン》・参加者受付（入国）
	11:30	《ながさキッズタウン》・オリエンテーション
	12:00	《ながさキッズタウン》 ・開国 職業を選ぶ→働く→給料をもらう→税金を納める→お金を使う（遊ぶ・買い物） ・市長選挙・子供議会（全員参加）
	16:00	《ながさキッズタウン》・閉国式
	16:30	《ながさキッズタウン》・出国手続き
	17:00 ～18:00	《子供会議》・振り返り・片付け
9/3	13:00 ～15:00	《子供会議》・反省会
9/24	13:00 ～15:00	《子供スタッフ会議》 ・今後の課題 ・まちの税金の流れ（収支決算書作成）

●活動の成果と課題

子供会議の中で話し合う内容を自分たちで設定し、講師依頼等を行ったり、実際のまちを散策し、まちづくりに活かす話し合いなどを積極的に行いました。活動を通して見えてきた、実際に暮らす地域の現状を行政に提案するなど、自分たちの地域にも関心を持てたようです。また、回数を重ねてきた中学生がリードする体制が自然に出来上がっており、わからないことを中学生に質問している小学生の姿、それを理解できるように丁寧に説明する中学生の姿をよく目にしました。現在、希薄になりつつある異年齢の関わりがここに存在していました。課題としては活動を展開していくには予算等を含め限界があり、今後は協力企業や団体への呼びかけも必要です。



銀行



病院（診察研修）

●団体概要

【設立年月】 平成15年9月

【URL】 <http://www7b.biglobe.ne.jp/~civichall/>

【設立の経緯】 将来、地球上に存在する全ての生き物が、無限（INFINITY）につながって欲しいと願う中で、環境、教育、経済等、今を生活している私たちの環境ではどうにもならないと感じるものがたくさんあり、せめて子供たちに、豊かな環境を残したいという願いから設立。

【目的】 持続可能な社会づくりを目指して、私たちに今、できることとして「子供たちが育つ環境づくり」を中心に子育て包括支援施設を運営し、妊娠期から学童期までの子育て支援を行っています。

【構成】 ・大学生（教育学部2名、環境科学部1名、情報メディア学科1名、国際学科1名、経済学部1名）
・社会人（幼稚園教諭2名、保育士1名、大学教授1名）

第4回福島キッズ「リフレッシュ&エコキャンプ@恵泉」

実施団体／学校法人 恵泉女学園

- 活動期間／8月5日（土）～8月7日（月）宿泊1回 2泊3日
- 活動場所／恵泉女学園大学キャンパスおよび町田市小野路の水田、農場
- 募集地域／福島県いわき市、東京都多摩市
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生
- 募集方法／・チラシ（配布先：いわき市三和町公民館、他） ・ポスター（掲示先：いわき市三和町公民館、他）
・その他（地域の子ども会を通して募集）
- 構成員数／52人
- 連絡先／恵泉女学園大学 園芸教育室 engei@keisen.ac.jp



田んぼで「生きもの調査」



収穫した野菜でオリジナルピザ作り

●活動のねらいとポイント

福島と東京の子どもに、実体験を通じて、食と農と環境、エネルギーの在り方などについて、共に考える機会を提供する。

具体的なプログラム名	主なポイント
田んぼ満喫！生きもの調査	恵泉が管理している水田で、生き物を探して観察。観察記録シートへ各自スケッチや気付いたことを記入する。豊かな自然環境から、農を通した自然と人との関わりに目を向ける。
収穫！恵泉産野菜	大学教育農場で、学生が本キャンプのために育てた野菜を収穫し、キャンパスへ持ち帰り、自ら洗って切り、ドラム缶窯でピザを焼いて食べる。収穫から食べるところまで体験し、農と食について学ぶ。
太陽の力ってすごい！	人間日時計・ソーラーッキング体験。ソーラークッカーでホットケーキやポップコーンを作って食べる。太陽の力を身近に活かす方法について学び、自然エネルギーについて考える。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 事前に危険箇所がないよう確認し、特に田畑では蜂やマムシが出ないように手入れをしておく。
- 【健康管理】 申込書に健康調査項目を加え、アレルギーなど把握しておく。社会人および学生スタッフを十分に配置し見守るとともに、看護師など保健の専門家がキャンプ中常駐する体制をとる。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8/5	13:00～	福島からバス到着、受付、昼のつどい
	14:00～	「和太鼓ワークショップ」
	17:00～	夕食、流しそうめん
	18:00～19:45	「草花クイズ」、「夕涼みコンサート」
8/6	6:30～	「ソーラーパネル見学」、「アニマル体操」
	7:00～	朝食、朝のつどい
	8:00～	「田んぼ満喫！生きもの調査」
	10:10～	「知ろう！里山の暮らし！」（地元篤農家宅でお話を伺う、昼食をご馳走になる）
	12:40～	昼寝
	14:10～	昼のつどい、「収穫！恵泉産野菜①」
	15:35～	「太陽の力ってすごい！」（ソーラークッカー、人間日時計体験を含む）
	16:20～	「収穫！恵泉産野菜②」（手作りピザ準備）
	16:50～	お風呂
	18:40～20:20	「収穫！恵泉産野菜③」（ドラム缶手作りピザ）、夕食、花火
8/7	7:45～	「押し花のしおり作り」
	8:45～	「グループフラッグ作り」
	11:30～	昼食、掃除、最後のつどい
	13:00	解散、福島へバス出発

●活動の成果と課題

福島第一原発の事故以降、野外活動が制限されている福島の子供を東京都多摩市に招き、田んぼの生き物調べや草花クイズ、野菜の収穫等の自然体験プログラムを主とした2泊3日のキャンプを実施しました。活動単位を福島と東京の子供7名と学生・社会人数名からなるグループ単位としたことで密度の濃い活動ができました。振り返りとして行ったグループフラッグづくりは共に未来を考える格好の機会となり、福島から4名の大人が引率スタッフとして参加したことで大人同士の交流もできました。多様な人々が共に集い活動を行ったことで、新たなつながりが生まれ、これらは持続可能で誰もが輝いて暮らせる社会を構築するうえで重要な礎をなすものと信じています。最大の課題は、人的資源や予算が限られる中で、プログラムを安全かつ継続的に実施するための仕組みを構築していくことです。



恵泉女学園大学に到着



和太鼓ワークショップ

●団体概要

【設立年月】 1929年4月

【URL】 <http://www.keisen.ac.jp/>

【設立の経緯】 1929年学校法人恵泉女学園学園創立 普通部設置

1950年恵泉女学園短期大学（英文科・園芸科）開学

1988年恵泉女学園大学を多摩市に開学

2005年園芸短期大学と大学とを発展的に統合

現在、世田谷区に本部と中学・高等学校、多摩市に大学が設置されている

【目的】 教育理念「神を畏れ 人を愛し いのちを育む」をかね、キリスト教信仰に基づき、神と人ともに仕え、自然を慈しみ、世界に心を開き、平和の実現のために貢献できる女性を育成する。

【構成】 理事長1名、理事15名、監事2名、評議員38名、教員117名、職員45名、生徒1,181名、学生（人文学部、人間社会学部）1,257名

読み聞かせボランティア養成講座－読み聞かせの基本がわかる！ 実施団体／特定非営利活動法人読み聞かせネットワークヒッポ

- 活動期間／7月15日（土） 日帰り1回
- 活動場所／大田区複合施設 Luz 大森 4F 大集会室
- 募集地域／東京都大田区、品川区
- 募集対象／一般成人、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：図書館、小・中学校、文化センター、書店、ボランティアグループなど）
・ポスター（掲示先：町会掲示版、書店など）
- 構成員数／20人
- 連絡先／事務局：近藤真奈美 090-9291-8078 hipohipo_land@yahoo.co.jp



講師 高橋公美氏



紹介した資料（絵本、参考本）

●活動のねらいとポイント

初心者を対象に、ボランティアマナー、読み聞かせの技術、絵本の選書について講義し、ボランティア活動の理解、認識を高めることをねらいとしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
読み聞かせボランティアとは	読み聞かせとは!? ボランティアの心構えとは!? ボランティアマナーや守秘義務について。
様々な場所での読み聞かせのやり方	事前準備、実践を交えた読み聞かせのやり方、学校や図書館等で行う場合のやり方。
絵本の選び方、おすすめ本の紹介	年齢に合った絵本の選び方、実演を交えたおすすめ本の紹介。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 会場については、事前に会場担当者と打ち合わせを行い、避難経路等を確認する。

【健康管理】 大田区所有の複合施設なので、館内は清潔であり、空調設備も整っているが、乳幼児連れや高齢者の参加者には、様子をみて声かけ等を行う。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/15	9:00	スタッフ集合 会場準備
	9:30	開場 受付開始
	10:00	講座開始 資料確認 講師紹介
	10:05	〈読み聞かせボランティアとは〉 ・読み聞かせとはどのようなものか!? 読み聞かせとは読書の世界を知らせるひとつのツールであること、絵本を読むことは簡単ではないことを学ぶ ・ボランティアの心構えとは!? ボランティアのガイドラインについて学ぶ (ボランティアマナー、守秘義務など)
	10:20	〈様々な場所での読み聞かせのやり方〉 ・読み聞かせの事前準備に必要なこと ・実演を交え、絵本の持ち方、ページのめくり方、基本的な読み方、間の取り方、はじめと終わりの雰囲気作りを学ぶ ・学校、図書館、その他の様々な場所で行う時の読み聞かせのやり方を学ぶ
	10:40	〈絵本の選び方、おすすめ本の紹介〉 ・子供の発達段階に添った絵本の選び方とは、朝読み聞かせにふさわしい絵本とは、大勢の子供たちがいるときは、などおすすめ本の実演を交えて学ぶ
	11:40	質疑応答 アンケート記入
	11:50	終了 退場

●活動の成果と課題

(成果)

読み聞かせボランティアを始めたばかりで知識・経験がない方、また始めたいと思っていた方に、学校・図書館・その他の公共の場で、読み聞かせを行うための心構えや読み聞かせのやり方が具体的に理解してもらえたと思います。また、経験者からは、改めて講義を聞いて、初心に戻り、自身の読み聞かせや取り組みに対して反省するいい機会となったと感想をいただきました。初心者にも経験者にも、誰のための読み聞かせ活動なのか、認識が改まり、それぞれの活動の場にすぐに活かせる有意義な講座でした。

(課題)

読み聞かせボランティアの人数が減少し、活動を継続することが困難な団体から相談を受けることが多くなりました。NPO 組織として、地域にどのような働きかけができるかが当団体の課題と思います。



受付時の様子



講座全体

●団体概要

【設立年月】 2015年2月（法人格取得）

【URL】 http://book.geocities.jp/hipohipo_land/

【設立の経緯】 2004年大田区内のボランティアが読み聞かせのネットワーク作りを目的にグループを設立。その後、知識や経験を活かし、事業を拡大して、大田区の助成事業や子どもゆめ基金助成事業を実施しています。（子供の読書推進事業、ボランティアの育成事業、学校図書館運営整備事業など）

【目的】 広く一般市民を対象に、子供の読書推進事業やボランティア育成事業等を行い、家庭・地域・学校・行政・企業を連携しながら、読書活動を支援し、読書を通じた地域社会の文化及び福祉の発展、社会教育の推進、子供の健全育成などの公益の増進に寄与することを目的とします。

【構成】 正会員20名（40代～50代） 賛助会員16名（大田区民） ヒッポサポーター会員10名（主に読み聞かせ活動をしているボランティア）

自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

職場体験

その他の体験

読書

教材

子どもゆめ基金で何ができるの？

- ・開発したいアプリや Web ページを作成して、広く社会に提供することができます。企画立案は応募団体で行っていただきますが、実際のプログラミング等は外部に委託することもできます。
- ・開発した教材を普及するための費用も、助成期間中は利用することができます。助成期間が終了した後は、応募団体の責任で行っていただきます。

子供たちにわかりやすい教材を作成する方法

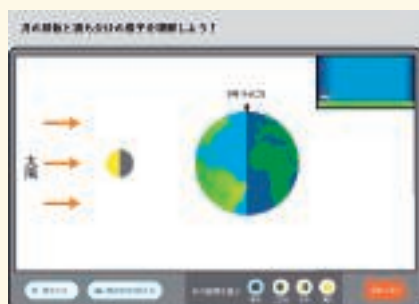
子供たちに、学習内容をより確実に身につけてもらうために有効な要素として、認知科学や学習科学の成果に基づいた「5種類の展開」をまとめています。

デジタル教材の作成テクニックを学ぶ <http://www.ledex.co.jp/yumekikin/>

上記ページでは、「失敗教材と対比する形で、5種類の展開で改善された教材」を10例掲載し、試してみることが可能ですので参考にしてください。

※ 5種類の展開

- ①応答する環境 ②本物性 ③足場がけ ④視点の移動 ⑤頭に入る大きさ



【陥りがちな失敗例】

- ・伝えたい情報を表示すれば、教材になると思いがちです。表示しただけでは、子供たちの頭に入りません。
- ・情報を覚えられたとしても、まだ不十分です。子供たちがその情報を、実際の社会の中で使えるようになってこそ、よい教材といえます。

注意すべきポイント

開発する教材に使う素材の著作権、教材の中で扱われる写真と関連する権利、さらに、子供たちの個人情報の扱いに留意が必要です。

下記の例を参考にしてください。

- ・素材の提供者（原著者）には、譲渡できない著作権者人格権があります。作成した教材を今後、団体の判断で修正するためには、その著作権者人格権を行使しないという契約をしておく必要があります。
- ・教材の中に写真がある場合、そこに写っている人の許諾を得ておく必要があります（肖像権等）。
- ・自由に投稿できるようなページでは、子供たちがいろいろな個人情報を書き込んでしまう可能性があります。第三者に悪用されない仕組みが必要です。

過去に開発された教材は下記 URL よりご覧になれます。

<https://yumekikin.niye.go.jp/link/index.html>

申請の主な流れ

ID申請

- ・電子申請システムを初めて利用される場合は、事前に ID の申請・発行手続きが必要です。子どもゆめ基金ホームページから電子申請システムに入り、ID 申請を行ってください。
- ・ID の発行は自動ではなく、職員が手作業で行っているため、土日祝日は発行できません。
- ・ID 申請の集中が予想される締切り間近は ID の発行に時間がかかりますので、余裕をもって申請してください。

電子申請 (企画書)

- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。
- ・**応募締切：2018年11月5日(月) 17時締切**

一次審査

- ・審査委員会による**一次審査（書面審査）**を行い、一次採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【2018年12月中（予定）】に通知します。

電子申請 (申請書)

- ・**※一次審査で採択された場合のみ**
- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。

二次審査

- ・審査委員会による**二次審査（申請書による書面審査及びプレゼンテーション審査）**を行い、採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【2019年4月上旬】に通知します。

交付決定

- ・採否結果をメールにてお知らせします（郵送による通知は行いません）。交付決定通知書または不採択通知書は、電子申請システムにて確認・ダウンロードしてください。
- ・申請額に対して決定額が減額となっている場合や交付条件が附されている場合がありますので、交付決定通知書の内容をよくご確認ください。

日中韓子ども童話交流事業

- 事業期間／平成29年8月17日（木）～8月23日（水） 6泊7日
- 実施場所／韓国（ソウル市、チェジュ市）
- 参加者／小学4年生～6年生 100名（日本33名、中国33名、韓国34名）
参加経験者 24名（日本10名、中国4名、韓国10名）
- 主催／（大韓民国）ソウル教育大学
- 共催／（中国）中国関心下一代工作委员会
（日本）日中韓子ども童話交流事業実行委員会
〈子どもの未来を考える議員連盟、国立青少年教育振興機構〉



「音」のテーマをもとにストーリーを考え中



「音」のテーマに沿った絵本を作成

●事業の背景

日中韓子ども童話交流事業は、日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、相互理解と友情を深めることを目的として、平成14年の「日中国国民交流年」を機に日本で開始しました。平成23年からは日中韓3か国による巡回開催となりました。

また、平成27年からは、過去に本事業に参加し、現在は大学生や社会人となっている参加経験者同士が交流する「参加経験者交流会」を開催しています。

●事業のねらい

本事業では、3か国の子どもたちがグループになり、協力しながらオリジナルの絵本を創作することで、読書の楽しみを知り、互いの友情を深めることを目的としています。

●世界に一つだけの創作絵本

絵本づくりは平成29年度のテーマである「音（おと）」に関する物語を創作しました。体験したプログラムをもとに、自分の気持ちや心を伝え合うために必要な「音」をテーマに10人のグループメンバーがストーリーを相談しながら、世界に一つだけの絵本づくりに挑みました。

●事業の日程・プログラム内容

月／日	時間帯	プログラム内容
8/17	午前	羽田空港発 金浦空港着
	午後	オリエンテーション・グループタイム
8/18	午前	ロッテワールド展望台見学
	午後	国立子ども青少年図書館訪問、開会式
8/19	午前	金浦空港発 済州空港着
	午後	済州世界自然遺産センター見学、 ナンタ講演観劇（セリフのない劇）
8/20	午前	済州民俗村見学
	午後	アクアプラネット（水族館）見学、 童話の読み聞かせ
8/21	終日	童話・絵本づくり、発表準備
8/22	午前	絵本の製本、PlayK-pop 訪問
	午後	絵本の発表会
	夜	夕食会、かくし芸大会
8/23	午前	閉会式（交流の旗引き継ぎ）



描いた絵本をつなぎ1冊の本が完成



出来上がった絵本の発表会

●参加者の声

- ①私がこの童話交流で心に残ったことは、10人で協力して絵本を作れたことです。みんなでテーマの音を考え、協力することができました。アイデアを出したり、お互いの意見を話したりして、まるで夢のような時間でした。出来上がった絵本は私の宝物です。（日本参加者）
- ②この世に別れのない出会いはないという言葉のように、交流会もすぐに終わってしまいました。別れの時は泣いてしまった。先生やみんなを温かく抱いた。短い時間だったけど仲良くなれた。言葉は通じなくても、表情や身振り手振りなどを使って心を通わせた私たちであった。（中国参加者）
- ③最初、組のみんなと出会ったときは全然しゃべらずにいて、自己紹介をした後もみんな同じ国の友達と話すばかりで、童話を作れるか不安でした。でも、一緒に講演を聞いたり、遊んだり、お互いの意見を聞きながら絵本を作っていると、いつの間にかみんなすっかり仲良くなってしまいました。（韓国参加者）



OB のアカペラ公演

●日中韓子ども童話交流日本人参加経験者交流会

おおよそ10年前に参加した参加経験者が、参加している子どもたちとの交流や、参加経験者同士での協議を通して、持続的かつ主体的に参加経験者たちが交流していくための3か国交流の在り方を考えました。また、プログラムを通して、3か国の友好を誓うすべての人達に向けてのメッセージ絵本を作成しました。

「体験の風をおこそう」運動[®]とは

近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少してきている状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く発信し、社会全体で体験活動を推進していくことを目的とした運動です。

チラシ・ポスター



のぼり旗



ロゴマーク



「チラシ・ポスター」「のぼり旗」「ロゴマーク」の使用をご希望の場合は下記までご連絡ください。

体験の風をおこそう運動推進委員会
taikennokaze@niye.go.jp

「体験の風をおこそう」運動に参加してみませんか。

体験の風をおこそう推進月間事業

体験の風をおこそう運動推進委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）では、毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定め、事業統一日（平成30年度は10月27日（土））を中心に、全国各地で子供たちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充及びその社会的気運の醸成に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、10月に「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。登録は、「体験の風」HP（<http://taikennokaze.jp/download>）より、要項をご確認の上、登録申込書に必要事項をご記入した後、メール（taikennokaze-suishin@niye.go.jp）またはFAX（03-6407-7699）にてご提出ください。

子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進月間事業のうち、特に競技性のある体験活動を幼児、小学生、中学生、親子等を対象に実施する事業を「子ども体験遊びリンピック」として併せて実施しています。

※上記の事業に参加いただける団体には、希望により「普及啓発ちらし」や「のぼり旗」を、また子ども体験遊びリンピックの事業を10月（推進月間）に実施する参加団体には、同委員会の松本零士委員長（漫画家）がデザインしたメダルと賞状をお送りします。



ガイドブック 「体験・遊びナビゲーター」



国立青少年教育振興機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。

<http://www.niye.go.jp/taikenasobi/>

子供を元気にたくましく育てるキーワード

読書 手伝い 外遊び

最近、外で元気に走り回る子供の姿を見かけなくなっていると思いませんか？ 今の子供たちは、私たち大人が子供だった頃に比べ、**自然体験や友達との外遊び、地域行事への参加**といった**体験の機会が少なくなっている**といわれています。こうした体験は、子供の**成長の糧**であり、**生きる力**をはぐくむ基盤になります。

子供が健やかに、たくましく自立した大人へと成長するためには、**小さい頃から成長に合わせた体験を積み重ねていくことが大切です**。でも、特別な体験が必要ということではありません。**「読書・手伝い・外遊び」**など**普段の生活で取り組める体験**でも、子供の**知・徳・体の成長に大きな効果**をもたらします。

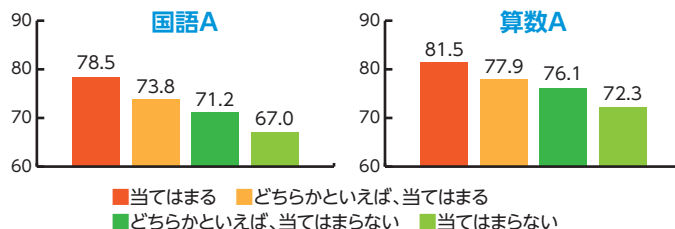
子供の将来を見据え、**今できることから始めてみませんか？**

読書

子供は、読書や読み聞かせを通じて、様々な言葉を学び、物事に対する感性や考える力、コミュニケーション力を身につけていきます。

また、読書が好きな小学生ほど国語や算数の点数が高くなる傾向にあることから、読書は学力にも関係していることがうかがえます。

「読書は好きですか」の質問に対する小学生の回答と学力調査の関係



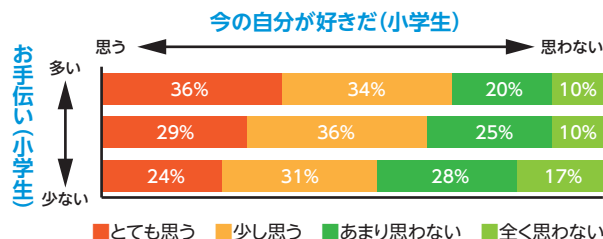
出典「平成29年度全国学力・学習状況調査」文部科学省

手伝い

子供は、家事や地域の活動を手伝うことで様々な経験をします。失敗を経て工夫すると、徐々にできるようになって自信がつき、積極的に行動するようになります。

また、人から感謝されたり褒められたりすると「役にたった」「認めてもらった」といった肯定的な感情が生まれ、責任感や使命感を養い、自立につながっていくと考えられています。

小学生の日頃のお手伝いと自己肯定感の関係



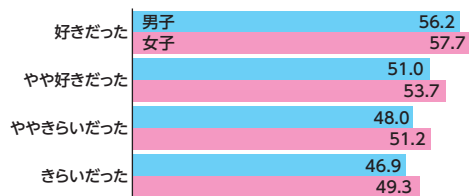
出典「子どもの生活力に関する実態調査」国立青少年教育振興機構 (平成27年度)

外遊び

外遊びは集団で行うものが多く、ルールを守り、コミュニケーションをとることが必要となるため、規範意識や社会性を育む良い機会になります。

また、幼児期に体を動かす遊びが好きな子供ほど、小学校に入ってから体力が高くなる傾向にあることから、外遊びは健やかな成長に欠かせない体験だということが分かります。

「入学前は体を動かす遊びが好き」の質問に対する小学生の回答と体力合計点の関係



出典「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」スポーツ庁

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体 (敬称略50音順)

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 社会通信教育協会 修養団 全国学校栄養士協議会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会 全国児童養護施設協議会 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本一輪車協会 日本キャンプ協会 日本子守唄協会 日本青年団協議会 日本体育協会日本スポーツ少年団 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本レクリエーション協会 ハーモニセンター ボーイスカウト日本連盟 [21団体]

「体験の風をおこそう」運動に関する問い合わせ先

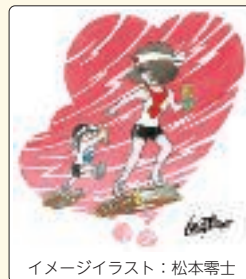
体験の風をおこそう運動推進委員会

(事務局：国立青少年教育振興機構)

TEL 03-6407-7621 E-mail taikennokaze@niye.go.jp



<https://taikennokaze.jp/>



イメージイラスト：松本零士

申請・採択状況

(8月1日現在)

平成30年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	5,774	3,976	1,373,932
子どもの読書活動	708	487	147,899
教材開発・普及活動	46	9	49,274
合 計	6,528	4,472	1,571,105

平成29年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	6,170	4,357	1,513,625
子どもの読書活動	737	538	151,751
教材開発・普及活動	35	10	59,487
合 計	6,942	4,905	1,724,863

平成30年度 都道府県別申請・採択状況

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	318	224
	読書活動	34	27
青森県	体験活動	54	32
	読書活動	6	5
岩手県	体験活動	40	28
	読書活動	2	2
宮城県	体験活動	78	44
	読書活動	9	5
秋田県	体験活動	27	16
	読書活動	3	3
山形県	体験活動	80	52
	読書活動	2	1
福島県	体験活動	64	50
	読書活動	10	7
茨城県	体験活動	101	79
	読書活動	3	2
栃木県	体験活動	97	54
	読書活動	15	10
群馬県	体験活動	64	47
	読書活動	6	2
埼玉県	体験活動	215	143
	読書活動	22	11
千葉県	体験活動	291	221
	読書活動	29	22
東京都	体験活動	824	590
	読書活動	93	62
神奈川県	体験活動	257	183
	読書活動	31	24
新潟県	体験活動	91	64
	読書活動	11	8
富山県	体験活動	14	12
	読書活動	1	1

都道府県	活動区分	申請	採択
石川県	体験活動	58	44
	読書活動	5	5
福井県	体験活動	35	25
	読書活動	6	5
山梨県	体験活動	87	41
	読書活動	13	5
長野県	体験活動	118	75
	読書活動	13	8
岐阜県	体験活動	97	68
	読書活動	3	3
静岡県	体験活動	109	70
	読書活動	12	10
愛知県	体験活動	186	130
	読書活動	32	17
三重県	体験活動	64	52
	読書活動	2	0
滋賀県	体験活動	58	43
	読書活動	13	12
京都府	体験活動	110	86
	読書活動	16	13
大阪府	体験活動	418	307
	読書活動	70	53
兵庫県	体験活動	237	160
	読書活動	29	20
奈良県	体験活動	80	67
	読書活動	14	10
和歌山県	体験活動	61	42
	読書活動	11	10
鳥取県	体験活動	28	10
	読書活動	0	0
島根県	体験活動	26	23
	読書活動	6	5

都道府県	活動区分	申請	採択
岡山県	体験活動	97	69
	読書活動	6	5
広島県	体験活動	47	32
	読書活動	3	2
山口県	体験活動	44	33
	読書活動	6	6
徳島県	体験活動	86	57
	読書活動	10	6
香川県	体験活動	57	41
	読書活動	8	7
愛媛県	体験活動	104	76
	読書活動	4	3
高知県	体験活動	45	25
	読書活動	8	7
福岡県	体験活動	279	166
	読書活動	50	28
佐賀県	体験活動	25	15
	読書活動	15	9
長崎県	体験活動	51	38
	読書活動	6	6
熊本県	体験活動	117	61
	読書活動	25	17
大分県	体験活動	36	25
	読書活動	0	0
宮崎県	体験活動	72	44
	読書活動	15	10
鹿児島県	体験活動	291	189
	読書活動	25	11
沖縄県	体験活動	36	23
	読書活動	5	2
合 計	体験活動	5,774	3,976
	読書活動	708	487

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子供の体験活動や読書活動などの振興を図り、子供の健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。

下記の募金口座にて募金を受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

なお、子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

振替口座

□座番号	00150-5-371382
□座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振込払込書を中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱 UFJ 銀行	渋谷支店
□座番号	普通預金 3025103	
□座名義	子どもゆめ基金	

子どもゆめ基金への支援

検 索

「子どもゆめ基金」へ寄附いただいた皆様

平成29年度に「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた主な方々です。

(あいうえお順・敬称略)

株式会社伊藤園	株式会社八洋
一般社団法人 Wilderness Education Association Japan	村井 悠治
コカ・コーライーストジャパン株式会社	株式会社明和サービス
シンソー印刷株式会社	森田 秀作
曾我部 國久	ライフカード株式会社
特定非営利活動法人日本子守唄協会	

子どもゆめ基金ガイド2018

2018年8月発行

編 集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発 行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電 話 0120-579081 (フリーダイヤル)

U R L <https://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

全国の国立青少年教育施設のご案内

国立青少年交流の家

- 1 国立大雪青少年交流の家 (北海道美瑛町)
- 2 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢市)
- 3 国立磐梯青少年交流の家 (福島県猪苗代町)
- 4 国立赤城青少年交流の家 (群馬県前橋市)
- 5 国立能登青少年交流の家 (石川県羽咋市)
- 6 国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市)
- 7 国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
- 8 国立淡路青少年交流の家 (兵庫県南あわじ市)
- 9 国立三瓶青少年交流の家 (島根県大田市)
- 10 国立江田島青少年交流の家 (広島県江田島市)
- 11 国立大洲青少年交流の家 (愛媛県大洲市)
- 12 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市)
- 13 国立沖縄青少年交流の家 (沖縄県渡嘉敷村)

宿泊体験学習に! スポーツ合宿に!

研修に! 講演会に! ミーティングに!

青少年の体験活動をサポートする
国立青少年教育施設が全国に28か所

国立青少年自然の家

- 1 国立日高青少年自然の家 (北海道日高町)
- 2 国立花山青少年自然の家 (宮城県栗原市)
- 3 国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西郷村)
- 4 国立信州高遠青少年自然の家 (長野県伊那市)
- 5 国立妙高青少年自然の家 (新潟県妙高市)
- 6 国立立山青少年自然の家 (富山県立山町)
- 7 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市)
- 8 国立曾爾青少年自然の家 (奈良県曾爾村)
- 9 国立吉備青少年自然の家 (岡山県吉備中央町)
- 10 国立山口徳地青少年自然の家 (山口県山口市)
- 11 国立室戸青少年自然の家 (高知県室戸市)
- 12 国立夜須高原青少年自然の家 (福岡県筑前町)
- 13 国立諫早青少年自然の家 (長崎県諫早市)
- 14 国立大隅青少年自然の家 (鹿児島県鹿屋市)



国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

子どもゆめ基金についてのお問い合わせ

TEL : 0120-579081 E-mail : yume@niye.go.jp URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/>



National Institution For Youth Education

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL 03-3467-7201 (代表) URL <http://www.niye.go.jp>